

# 松原地区のまちづくりの方向性 (松原地区のまちづくりビジョン素案)

令和6年2月  
青森市教育委員会事務局

# 目 次

1 松原地区のこれまで	1 P
2 現有施設の状況	2 P
3 青森市都市計画マスタープラン	3 P
4 青森市ファシリティマネジメント推進基本方針	4 P
5 青森市の地域防災計画と中央市民センターの位置づけ	5 P
6 市民意見の整理	6 P
7 棟方志功生誕120年記念棟方志功サミットin青森での意見	7 P
8 松原地区のまちづくりの方向性	8 P
市民意見一覧【資料】	9 P

# 1 松原地区のこれまで

松原地区においては、昭和42年9月に勤労青少年の健全な育成と福祉の増進のため、旧松原中学校跡地の一画に勤労青少年ホームが開館した。

また、青森市制70周年を記念して、昭和44年10月に市民の憩いと教養の場として勤労青少年ホームに隣接し、既設の中央公民館の機能を組み込んだ市民文化センター（現在の中央市民センター）が開館した。

さらに、昭和50年5月に市民文化センターの南側に市民図書館が開館し、平成12年9月の青森駅前（アウガ）への移転による閉館までの間、市民の読書活動の拠点として長い間活用されてきたところであり、閉館後も平成21年6月から令和5年3月までの間、国立大学法人弘前大学が研究施設として借り受けて活用していた。

そのほか、昭和54年10月には平和公園（昭和54年4月完成）の西側に青森市制80周年を記念して、青森市民文化ホールが開館し、平成19年6月の閉館までの間、さまざまな催事が行われていたほか、現在も区内には青森市立堤小学校、青森県立北斗高等学校、学校法人東奥学園（東奥学園高等学校、認定こども園東奥幼稚園、東奥保育・福祉専門学院）が立地しているなど、長い間、文教施設が集積している地区となっている。

## 2 現有施設の状況

### (1) 中央市民センター (今年で築55年)

社会教育施設の中核となる施設で、他の地区市民センターより広範な学習活動支援を担う老朽化の進行が顕著（躯体、屋上防水、給排水・暖房等設備等の劣化）

### (2) 勤労青少年ホーム (今年で築57年)

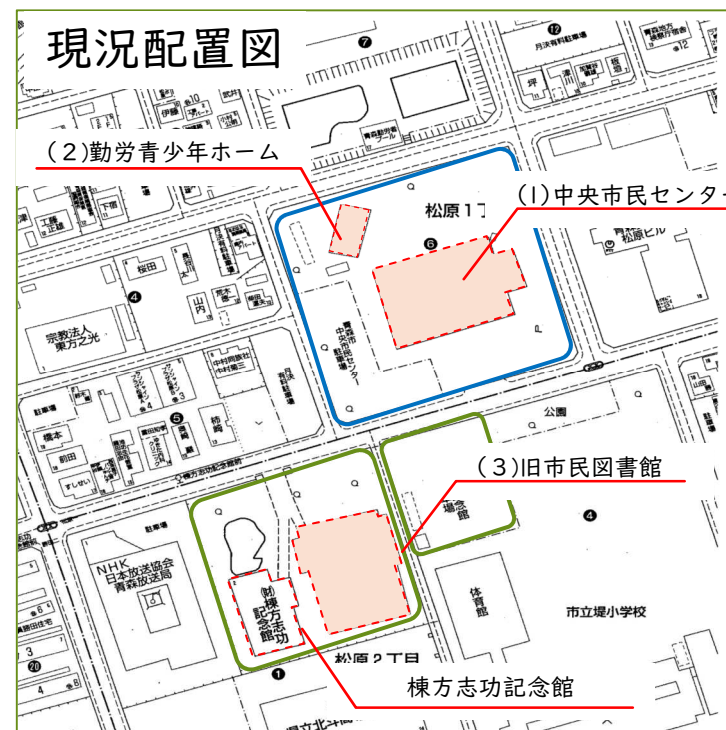
市民センターと同様の利用実態で、社会経済状況の変化、余暇活動の多様化などにより、施設本来の目的である勤労青少年の利用は減少し、存在意義が薄れてきている

### (3) 旧市民図書館 (今年で築49年)

令和4年度に弘前大学が退去し、現在は未利用状態（空家）

施設名	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建築年	築年数
(1)中央市民センター	9,371	5,822	S44年	55年
(2)勤労青少年ホーム	339	732	S42年	57年
(3)旧市民図書館	3,581	2,454	S50年	49年
計	13,291	9,008	/	/

参考	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建築年	築年数
棟方志功記念館	2,821	768	S50年	49年



# 3 青森市都市計画マスタープラン

## 魅力が集いひとが行き交う 県都あおもり

(青森市都市計画マスタープランにおける都市づくりの基本理念)

青森市の「都市計画マスタープラン」では、都市機能の集約化や複合化による賑わいの創出、居住機能の集約化による地域コミュニティの維持、無秩序な市街地拡大の抑制によるコンパクトな都市環境の形成及び地域に根ざした持続可能な公共交通体系の整備、選択と集中による計画的な街路整備の促進による円滑な都市交通環境の形成を柱とする「『コンパクト・プラス・ネットワーク』の都市づくり」を推進しており、その中で「都市機能の誘導方針」を定めている。

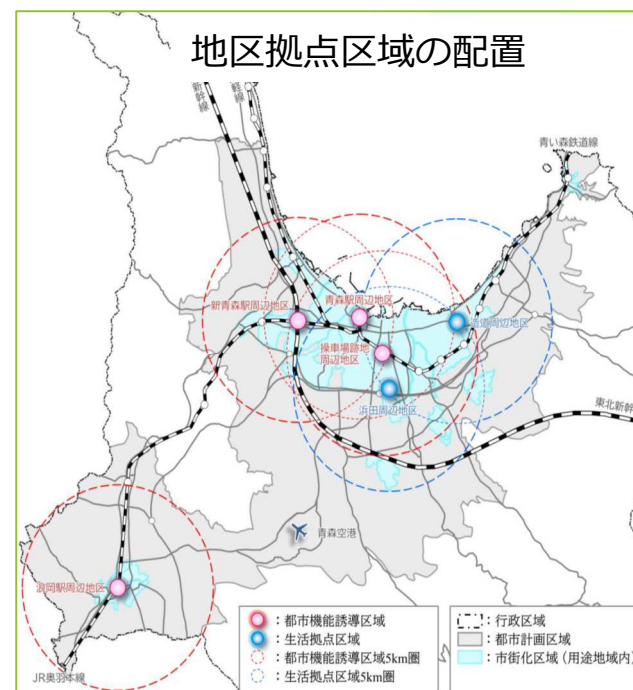
### 「都市機能の誘導方針」(要約)

都市機能の誘導に当たっては、都市機能の区分ごとに、「高次な都市機能」と「日常生活に必要な都市機能」に整理する。

地区拠点区域における誘導施設は、多くの市民及び周辺市町村からの利用が見込まれ、市全域や広域的な観点から配置すべき施設等である「高次な都市機能を有する施設」の中から設定する。

小中学校等の法令により適正な通学距離が規定されている施設又は地域包括支援センター等や市の計画に施設の配置基準が示されている施設、主に施設周辺に居住する市民に対して日常生活を支援する機能を提供する施設など、市の年齢構成別の人口分布等に応じて配置することが望ましい施設である「日常生活に必要な都市機能を有する施設」は地区拠点区域における誘導施設とはしない。

中央市民センターのような「日常生活に必要な都市機能を有する施設」は、これまでどおり松原地区など各地区に整備することが可能となっている。



# 4 青森市ファシリティマネジメント推進基本方針

## ～青森市公共施設等総合管理計画～

人口減少と少子高齢化の進展は、税収の減少や社会保障費の増加を招き、財政状況は更に厳しさを増すことが見込まれるとともに、公共施設等の利用需要が質・量ともに変化していくことが予想される。

このような状況を踏まえ、青森市では、**長期的な視点をもって、財政負担の軽減と平準化及び公共施設等の配置の最適化を実現するため**、本市の公共施設等全体の統一的なマネジメントの取り組み方針を定めており、その中の「**公共施設等の管理に係る基本的な方針**」において、**公共建築物の整備について考えを整理している。**

### 「公共施設等の管理に係る基本的な方針」（抜粋）

#### 公共施設等の総量抑制

- ・行政サービス水準を確保しつつ、公共施設等の総量を抑制

《総人口の減少率を踏まえ、公共建築物の延床面積を20%縮減》

#### 公共建築物の整備

- ・施設配置のバランスなどを考慮した周辺既存施設との統合による複合化
- ・複合化にあたっては、国、県、民間企業等の所有する建築物の活用や既存施設の空きスペースの活用も検討
- ・ユニバーサルデザインの考え方に基づいた整備

**公共施設（建築物）の整備に際しては、総量抑制を図るため、周辺既存施設との統合による複合化を原則とし、複合化にあたっては、既存施設の利活用なども検討し、ユニバーサルデザインの考え方に基づき施設の整備に努めることとしている。**

# 5 青森市の地域防災計画と中央市民センターの位置づけ

青森市の「地域防災計画」では、災害時等における市民の迅速かつ円滑な避難を確保するため、指定避難所及び避難路の選定、避難訓練及び避難に関する広報の実施、避難計画の策定等避難体制の整備を図るものとしており、大規模災害時の想定危険箇所を把握し、現状の指定避難所及び避難路等についての総合的な課題の洗い出しを実施し、県と一体となって最適な指定避難所及び避難路等を地域ごとに検証し、**現状に即した最も効果的な指定避難所及び避難路を確保することとしている。**

現在の「中央市民センター」は、指定避難所及び指定緊急避難場所に指定されている。

施設名称	所在地	解錠	受入場所	指定種別	指定避難所	指定緊急避難場所								
						洪水	土砂災害	高潮	地震	津波	大規模な火事	内水氾濫	火山現象	
中央市民センター	青森市松原一丁目6-15	要	1F	寿集会室、寿娯楽室	指定の適否	○	▲	○	○	○	▲	×	○	×
			2F	講堂、実習室、中会議室(3)	使用可能階数	-	2階以上	-	-	-	2階以上	-	-	-
			3F	大会議室、中会議室(1)(2)、集会室、研修室1・2	面積	1,438㎡	1,278㎡	1,438㎡	1,438㎡	1,438㎡	1,278㎡	-	1,438㎡	-
			4F以上	【4階】小ホール	収容人数	719人	639人	719人	719人	719人	639人	-	719人	-

【各表記】

解錠の欄「要」・・・避難所開設本部より開設に係る連絡を行った上で避難所開設を行う施設等。

解錠の欄「不要」・・・公園等の解錠が不要な施設等（避難所開設本部からの連絡等がなくとも、市民へ開放されている施設等）

収容面積・・・各受入場所の端数切捨した数値の合計。

収容人数・・・指定一般避難所と指定緊急避難場所を兼ねる施設は1人当たり2㎡、指定緊急避難場所のみの場合は1人当たり1㎡で積算した数値。

○・・・指定一般避難所もしくは指定緊急避難場所として指定されている施設等。

▲・・・浸水想定域に立地することから、施設の一部のみを指定緊急避難場所としている施設。洪水、高潮、内水氾濫の場合は、想定される浸水深以上の階層にある場所。津波の場合は、協定に基づく指定箇所もしくは基準水位以上の階層にある場所。

×・・・該当する区分において避難所指定を行わない施設等。

福祉・・・指定避難所のうち、避難所での生活に特別な配慮を必要とする要配慮者等の受入を行う指定福祉避難所。

「地域防災計画」より抜粋

## 6 市民意見の整理

令和5年11月4日(土)~5日(日)に開催した「松原地区のまちづくりビジョンに係る市民ワークショップ」の参加者からは、松原地区について様々な意見が寄せられた。

○棟方志功記念館及び中央市民センターの継続活用やリニューアル、建て替え、旧市民図書館の利用など引き続き文教地区としての機能確保を望む

『文化・社会教育施設のあり方に関する意見』

○子どもから高齢者までが集う、過ごす、学ぶことができる地区や、歴史・文化・芸術を学び楽しむことができる地区となることを望む

『市民相互の学び合い・交流の促進に関する意見』

○災害に対する備えや防災設備・機能確保を望む

『防災に関する意見』

など、主に『地域のコミュニティ拠点機能の強化』が求められている。



# 7 棟方志功生誕120年記念棟方志功サミットin青森での意見

令和5年9月17日(日)に開催した「棟方志功生誕120年記念 棟方志功サミットin青森」の座談会において、松原地区に関連する発言があった。(抜粋)

○石井頼子氏(棟方志功研究家・志功の孫)

「彼(棟方志功)が考えたのは、**森のような庭がある**、ヒバがあったりポプラがあったり、そういう所に小さなベンチが2つ3つあるような、そういう**所が自分の記念館にはふさわしい**。そこに**皆さんが集っていただけたら、きっと彼にとってはうれしいことなんじゃないかなと思う。**」

○杉本康雄氏(青森県立美術館館長)

「**庭を上手に活用しながら、子どもが集まってワークショップをしながら、あるいは遊びながら描けるとか、そういうアートに親しむような場所になればいいな**というのが私の気持ちとして一つある。」

## 8 松原地区のまちづくりの方向性

- 地区内各施設とも老朽化が進み、近い将来機能維持が困難となることから再整備が必要
- 施設の再整備は、現機能を維持しつつ、市民ニーズ等を踏まえることが必要
- 子どもから高齢者までが集い学び過ごせる環境が必要
- 文化・芸術・歴史などを引き続き学び楽しむことができる環境が必要
- 防災（避難所）機能の確保・強化が必要

### 具体的対応案

- ・棟方志功記念館について、青森ゆかりの文化・芸術家の業績を学び、版画を含めた文化芸術の体験学習ができる施設として活用することを検討（県等と協議）
- ・中央市民センターと勤労青少年ホームの統合施設を検討

### 《必要機能イメージ》

- ・文化・芸術学習拠点機能
- ・市民センター機能
- ・子ども学習機能  
（プラネタリウムの更新等含む）
- ・歴史学習機能（青森空襲含む）
- ・多目的アリーナ機能  
（スポーツ活動と避難所機能の拡充）

# 市民意見一覧【資料】

## 松原地区のまちづくりビジョンに係る市民ワークショップ

日 時 令和5年11月4日（土） 参加者 33人  
令和5年11月5日（日） 参加者 31人  
場 所 中央市民センター 大会議室  
テーマ 松原地区の10年後の未来

11月4日（土） 1日目

○子供達とおじいちゃん、おばあちゃんが手を取り笑いながら過ごせる地区になっているように！！

○文教ゾーンにふさわしい施設が望ましい。児童科学館（函館の駅前にあるような）とか。夜間中学校⇒不登校などで義務教育を受けられなかった方への、施設を創設してはどうか？

○青森市の文化教養の発信地として、文教特区に育てて欲しい。市民図書館もアウガから松原に戻し、棟方志功記念館と一体化する事も検討願いたい。

○私は10年後、皆が安心して定住できる楽しい松原地区になってほしい。また、文化などを伝承して文化的、歴史的建造物がずっとあり続けるような地区、まさしく文教地区と呼ばれるような地区であってほしい。

○今ある建物が、本来の姿（モダニズム建築）を留めたまま保存（保全）され、市民の手によって時代のニーズに合った、活用のされ方をしているという地区であってほしい。（地区のアイデンティティに根差して発展するエリアに）

○青森の文化を学び育てる松原地区、棟方志功の存在や歴史的に価値をもてる建物など、文化に関する資源を多く持つ松原地区、その特徴を活かして（もっとPRして）文化を学び育てる地域になってほしい。

○今回の話し合いを通して、せっかくステキな建物が沢山あるのに、活かせていない事などの問題点が出ました。学校で浦町地区の魅力を発見する授業などもやっているとありますが、ここは若い世代にPRできるものが少ない。だから今回私も意見しましたが、世界に誇れる建物（科学館、中央市民センターをもっと広める）がある松原地区であってほしいなと思います。

○レトロモダンな建造物が立ち並び、集いたくなる場所が複数ある所。集うことで自分が満たされていくと実感できる松原地区。人を連れて行きたくなる所。

○外へ出た（送り出した）若者が、誰かを一緒に引き連れて戻ってくる街。そのために意識から離れない魅力をどうやってつくるか。何に求めるか。そこに知恵を注ぎ込む。何かがあるはずだ。

○今ある社会教育施設を活用し、10年後も子どもたちと共に歩いて行ける場所、子どもたちの拠り所になってほしい。

○長期間で物事をみる視点を持ち、将来の世代に貢献できる物、文化を創ることができる松原。活気にあふれ、「いい街だ」と皆が思えるような松原（多様な視点から見た時に）。

○青森市民、青森県民、世界に（棟方志功は100年）必要とされ、普遍的価値を認められる地区に。今日と明日、来年、10年後、100年後をいつも並行して感じ考えられる地区に。市民が集い、喜怒哀楽を分かち合い、共に解決策を考えられる地区に。若者の事を、最優先で考えられる地区に。

○戦後60年でせっかく作られた物、街を取り上げないでほしいです。修理できるものはその方法を考えてほしかったです。少しずつ向上してほしい（取り壊すのではなく）。壊してしまうと更地です。

○高齢者と若者達が、手と手を取って生活できる街。若い人が働ける場所を確保し、子育てや将来に安心感を持てる街。冬期間でも、市民が安全に活動できる交通体系（通行路、乗り物等の選択）。

○若い人達から、年齢層の高い人達までが、遊べる（集まれる）町会であってほしい。イベントなど、もっと沢山行い盛り上がるような街。文化などを大切にし、後世まで途絶えることが無いような形態であってほしい。

○文化・教育に関連する施設は、集中して残すべきだと思う。ボールを使って、運動できるスペースが市内に少ないので、これも確保すべきである。棟方志功をはじめとした、文芸に功労した市出身の功績を讃える施設は残す。高齢者、若者、全世代に配慮してほしい。

○市内の文化・芸術施設（北のまほろば館や国際芸術センター等）を松原地区に集約し、棟方志功記念館を核施設とする。真ん中を通る道路を、人と自転車専用のペDESTリアンデッキにし、全体を公園化する。流雪溝整備が必要。歴史を重視する。

○棟方志功記念館を中核とする、芸術文化、デザイン、市民共創センター地区（平和公園とも一体化）

○10年後、松原地区は青森市の子供たちが様々な文化体験、学びができるようなエリアになってほしいと思います。子供たちが、地域の方々と交流しながら学校では学べないような事も、体験できるような場であれば良いと思います。

○年代問わず「松原地区」に来て、自分らしく学んで笑顔で過ごせる地域。

○大人も子どもも、気軽に集まれる市民センターを中心に、昔のような文教地区と胸を張って言えるような地区であってほしい。

○子どもたちが、学びの拠点として活用できるような地区。プラネタリウムや、かつての市民図書館のような学びを得られる地区として活用して欲しい。

○松原地区に住んでいる人、そうでない人、多くの人を訪れ、活気がある松原地区になってほしい。10年で、そのような松原地区になるために、まずは既存の施設を市民力+民間力で上手に活用して、賑わいに繋げてほしい。

○若い人と、歴史がうまく混ざっている松原地区であってほしいです。例えば

・公園が多いという利点を活かし、その公園に関するクイズをしながらウォーキングするスタンプラリーを実施（子どもも楽しめる）。

・棟方志功記念館は残っていてほしい。改装・耐震工事をし、図書館はカフェみたいなどころにするといい。作品は美術館に移されても、志功の愛用していたピアノは、カフェに置いて誰でも弾けるようにすると思います。庭で行事（花見など）をすると思います。

○未来の子どもたちが、青森市の歴史や文化・芸術に触れ、学ぶ場所としてや文化勲章の受章者である、世界の棟方志功を活用した、観光資源の記念館活用をしてほしい。

○青森市の歴史資料館があってほしい。棟方志功記念館の建物が存続「志功の館」として再活用される事。図書館跡地の建物を防災拠点とし、複合施設として歴史資料館を入れ、志功館と連絡通路をとり、1Fは軽食コーナーになる事を希望。市民センターは新しく建て替えてください。

○今までのように、文教地区であってほしい。施設を維持管理できるように、これから先の費用を考えて計画的に進めて行ってほしい。融雪にして、来やすい場所にしてほしい。子どもたちが安心して住める場所。

○住民の多い地区（市内の別地区、市外から松原地区に引越して来てほしい。）

文教施設の充実した地区（文化施設といえば松原地区、と言われるような。）

公園のある地区（現在とても公園が多く、緑豊かで気に入っている。減らしてほしくない。）

ますます発展した地区であってほしい。

○棟方志功記念館はなくなっても仕方ないが、庭園は活かしてほしい。何か新しい施設はほしい。幼児や小学生も遊べて学べる場所にもしてほしい（パークやアミューズメント施設など）。中央市民センター周りに飲食できる場所があればもっと活用につながる（カフェなど）。市民図書館が戻ってきてほしいと考えている人は多いみたい。平和公園と何か連携できないか。

○あらゆる世代の人たちが共生できる町になってほしい。古き良き文化が受け継がれる町になってほしい。

○高齢者にとっても憩いの場になるよう、友達とも会える小さくてもよいので、毎日行きたくなるようなカフェなどあってほしい。文化都市だったので、図書館はよく利用し毎日通っていました。街並みに期待したい。

○高齢者でも気軽に行けるカフェなどあれば、家に一日一人で誰とも話さないという日がなくなると思う。冬に雪の心配もなくなるように、流雪溝を作ってくれれば良いかと思います。

○災害に強い施設がある地域！人が集まる施設（幼児～高齢者）。棟方志功記念館に変わる施設。旧図書館跡地が有効利用できるよう！お年寄りが暮らしやすい地域。

11月5日（日） 2日目

○既存の設備（志功館等）を利用し、人が集まれる地域にしてほしい。また、志功先生の誕生日には、地区をあげて催し物をして市内にアピールする。

○中央市民センター（特にプラネタリウムのPR）・旧市民図書館の庭園の整備・棟方志功記念館の存続（絶対条件）などを中心とした、松原地区が学生で賑わう街、市民に愛される地区として発展して欲しい。学生が集まれば商店なども増えていくと思います。

○子供たちが地元青森の歴史や文化、そして魅力を学び感じられる場所としてあってほしい。集まったり、語り合ったり、のんびりとただ思いをはせたりしながら過ごせる場所として。子どもも大人も、おじいちゃん、おばあちゃん、そして犬、猫も…県外の人外国の人フリーに行き交う場所。集いの場所に！！志功フェス開催！？

○青森市文教地区として、半世紀以上立地してきた松原において、10年後青森の子供たちが30年40年50年後、青森市で大人になってガッポガッポ稼いで、住む選択をしてもらえるようなこれから先の社会で、産業が仕事を生み出せるような人材となるよう学びを得られるエリアになってほしい。課題解決思考とか文理融合に限らず、地域の偉人や歴史を感じてシビックプライドの醸成も大事！！（一部エリアに大学の学部誘致とかできないかな～）

○防災設備が地域住民の声に反映できるような、施設建物等がそろっているような街になってほしい。とりわけこの地域は平坦な地形のため、垂直避難（津波対策）上4階以上の鉄筋コンクリートの耐震建物が必要である。

○子どもから大人まで誰もが学べる松原地区にしたい。中央市民センターは、現状のままで、生涯学習の場に。棟方志功記念館は、建物を後世に残す。旧青森市民図書館は、民間にも利用できるようにする。

○子どもが沢山集まる地区。子ども会活動を始め、子どもが主体となって様々なイベントが催され、地区内外から多くの子どもが集まる場所にしたい。※ジュニアリーダー活動を市民センター中心で実施したいです。

○子どもから大人まで学べる環境を維持しつつ、暮らしやすい松原地区にしたい。志功館の建物・庭園を残してほしい。老人の住みやすい街づくり。子どもが遊びやすい街。

○楽しい街づくり。誰もがこの地区に足を運べる場所であってほしい。子どもから大人まで楽しく学べる場所。この地区に来たら、誰もが笑顔で帰れる場所。市民センターの建て替えて学び、飲食、遊び等、楽しめる場所になれば良いと思う。

○私は生まれてから、松原地区に80年近く住んでいます。60年前はまだまだ今のような松原でなかった。今の松原は、とても住みやすく地価も上がっています。出来るものなら、全市からのアクセスを良くして、今とあまり変わらない芸術・文化の街にしてもらいたいです。今のままでも十分良いです。

○今まで、障がい者の支援活動の場として、市民センターを利用してきました。今後少子化、高齢化の中、障がいがあっても、地域で交流できる共生社会としての施設であってほしいです。棟方志功記念館、市民が声を上げ始め、青森にもすごい人がいると思いました。地元の文化を大切にした取組をしてほしい。記念館は、棟方の意志を継いで残していくべきだと思います。文化の街、松原。共生社会の松原になってほしいです。

○総合文化芸術教育機能を有する地区。特に教育は、学校教育、社会教育、家庭教育のバランスを重視。その中で若者が育つ、それを市民が汗をかいてサポートする拠点をぜひ！！

○中央市民センター、棟方志功記念館があり（存続）裏手から遊歩道を歩いて平和公園に行ければよい。できれば、喫茶店、軽飲食ができる店があればよい。市民センター祭りと、松原町会祭りを統一して盛大に行う。

○複合施設で健康を考えた食堂を（アルコール抜き）。子ども、学生、社会人、勤労者、高齢者が集まる楽しい遊学大学の施設を。志功館をリニューアルし継続する。観光客のおもてなしとして、絶対必要な建築物です。皆が寄り添える文化ゾーンを造る。国際的に誇れる施設として考える。皆が集まる、学べる施設を。お金をかけないで！！

○「学び・趣味・文化」を体験できる地区。交通アクセスが便利で、あらゆる世代が活用可能なアイテムが揃っている。防災施設としての機能も万全に有している。



○記念館など、多くの人々が集まるような共有スペースの多い地区であってほしい。一部の人だけではなく、地域に関わる全ての人々が、この場所を大切に残したいと思えるような地区であってほしい。学生が多く関わる地区であってほしい。

○現状の施設を更新することにこだわらないが、文化・芸術を楽しめる地区であってほしい。

○ストックされた文化施設（公園、遊歩道も含めて）を活かして老若男女が交流しつつ街づくりに参画できる松原地区。可能であれば棟方志功記念館は残してほしい。無理な場合は既存の施設のリノベーションにより、その機能を残してほしい。（県美のサテライト？）

住民参加により計画をしてもらいたい。その他の施設もリノベで良いと考える。観光拠点にもなり得ますが、まずは住民が版画家の街を、誇りに思って、文化活動を活発にして交流発信できる場所を目指してもらいたい。

○私は10年後の松原地区が、色々な世代の人が交流できる住みやすい地区であってほしいと思います。今日の話し合いで、様々なサークルが活動している事を知って、色々な趣味の人が違う年代でも交流できる場を作ってもらえるのは良いなと思いました。また、昔の松原地区の芸術に関する集まりも作ったらいいと思いました。

○松原地区 ⇒ 文化・学習ゾーンの街！（青森市をゾーン化する）

この地区に来るとできること

音楽・版画・書道・ヨガ・美術・クラフト・伝承文化 ⇒ いつでも体験ができる

- ・交流人口の増加（青森を訪れる外国人がyou can go to 文化学習ゾーン）
- ・不登校などの子どもたち（文化的なことに触れて心を癒す）
- ・ストレスの多いビジネスマン
- ・ストレスの多いママ
- ・高齢者
- ・誰でも

そのためには二次交通の見直し。（ねぶたん号は使いにくいので）

バス、駐車場、誰でも来る事ができる！

○松原地区は、様々な文化的コミュニティが生まれ、活動し交流するコミュニティの醸成エリアになっていると良いと思う。松原エリアの本当の価値は「棟方志功記念館」や「旧図書館」があることではない。市民センターが多様なコミュニティを内包するスペースだというのが、最大のバリューだと思う。

○地域の方が集まって活動するだけでなく、多くの子どもたちが集まって、活動したり勉強したりできる場であってほしい。

○まずは、街づくりにおける「テーマ」を明確にすること（田舎館は田んぼアート、大間町は大間のマグロのような）。提案としては「教育に特化した街」。今ある文化施設、環境、文教地区的な土台を活かし強化するのが合理的。例えば、弘前や十和田のような附属小中学校のようなもの。松原地区は、教育の街と明確にすることで、共感する人が自然と集まり「テーマ」を持った街ができる。

○人が集う街、10年後、今の中学生が大学を終え就職する頃活性化。また戻ってきたいと思えるような街に。→棟方志功やプラネタリウム。宝物がいっぱい！！うまく活用し、市民も観光客も足を運ぶような企画（しかけ）が必要。

○私は10年後、「青森市の魅力が集まった街」であってほしい！

理由：現状→建物の老朽化などにより世界に誇れる建築物はなくなりそう…

これを解決するための具体的方策は…

例：市や県と連携して松原地区の魅力を発信する企画・プロジェクトを実行！

一つでも新たな“松原地区の魅力”を創る！

○今回のワークショップにて、町や建物の歴史や価値の話があった。一つの建物においても建設に関わった人はもちろん、その地域の人や建物を使って、建物と共に育っていた人々がいる。老朽化による建て壊しなどはあるものの、土地や建物にこもった思いを活かしてほしい。とはいえ、新しいものも嬉しい！

○現在の建築を活かし、記憶歴史が語れる街にしたい。子どもたちが集う街。景観の美しい街。

○高齢者の方も若い世代（子ども）もそれぞれが集まって、楽しく過ごせる。それぞれのニーズに応じた施設や機会のある松原地区。

○棟方志功記念館はリニューアル。本人のピアノが演奏され、カフェ・レストランが入り版画を体験できる。隣の旧図書館も、版画の歴史や関わる人を深掘したり…。中央市民センターは、古い（日本で一番ミノルタ）プラネタリウムを維持しつつ、多くの市民が楽しめる場とする。文化的、特に版画に特化しこのエリア全体が、他県から来た人が散歩するように楽しめるポイントを散りばめ、観光客の目指す場となっている！

○「版画の街・あおもりミュージアム構想の柵」

棟方志功記念館通り…記念館が閉館されると、この名称もつかえなくなります。正面道路には平和公園、東奥学園高等学校、NHK青森放送局、青森市中央市民センター、青森市立堤小学校などの施設が立ち並んでおります。松原地区のロケーションは文化ゾーンとして最適です。向かいの市民文化センターも老朽化が進みやがて同様な問題になるでしょう。ゾーニングで一体として、点ではなく面で街づくりするべきです。記念館隣地に旧青森市民図書館も現状は廃墟です。棟方志功記念館と一体で「版画の街あおもりミュージアム」として、体験型のソーシャルインクルージョン型施設をこれからも訴えていきます。